上砥山遺跡出土木製品の年輪年代測定からみた出土遺構の数値年代

前 田 仁 暉・星 野 安 治・内 田 保 之

目次

１．緒言
２．遺跡の概要
３．分析対象と方法
４．結果
５．考察　出土遺構の数値年代測定
６．結言

― 論 文 要 旨 ―

本論では、滋賀県栗東市に所在する上砥山遺跡における河川跡から出土した古代の曲物の底板や蓋板（以下、円板）をはじめとする木製品について、年輪年代測定の結果を報告し、そこから推定できる出土遺構の数値年代について考察した。19 点の木製品を選定し、全点非破壊で年輪年代測定を実施したところ、10 点について年輪年代を特定できた。最も新しい木製品の最外年輪年代はCE641 であり、遺構の上限年代は、この年代を遡らないことが明らかになった。樹皮や辺材が残存するとみなされた木製品はなかったため、伐採年はより新しい年代になると考えられるが、同遺構から出土した他の遺物の時期が７世紀中葉～８世紀中葉を中心とすることと整合的な結果となった。今後も円板が出土した場合は、年輪年代測定により出土遺構や伴出遺物の数値年代を推定することが期待される。

キーワード
古代　上砥山遺跡　年輪年代測定